

# コロナPCR検査全市町で行え！ -尾道でも検査体制を整えよう-

2020年8月4日 広島県知事 湯崎英彦様  
日本共産党広島県委員会 新型コロナウイルス対策本部本部長  
大平喜信、同本部長代理 県会議員 辻 恒雄

## 新型コロナウイルス感染症対策に関する申し入れ(第5次)

新型コロナウイルス感染症対策で、連日のご奮闘に敬意を表します。新型コロナウイルス感染症の感染者数が全国で最多を更新しています。広島県においても感染者は7月9日から連続確認されて累計は366人(8月3日)となり、7月以降の感染者は「第一波」を超えました。しかし、国の対策と言え、三密を避けた新しい生活様式の徹底などをよびかけるもので、これでは今後の感染拡大を防ぐことができません。

県は7月21日の記者会見で「第二波の入り口に差し掛かっている」と、「警戒強化宣言」を出し、「行政は徹底した早期の新規感染者の補足などによる感染拡大防止対策に取り組む」としています。積極的な推進をお願いします。

日本共産党は、感染拡大を防ぐにはPCR等検査を大規模に実施し、無症状者を含めて「感染力」のある人を見つけ出して隔離・保護していく事が必要だと考えます。検査の目的を診断目的でなく防疫目的に切り替え、感染拡大の抑止と安全・安心の社会基盤をつくることを明確にして積極的に取り組むべきです。

この立場から、以下、緊急に申し入れますので、ご検討くださるようお願いいたします。

### 記

1. 今からでも「GO TO トラベルキャンペーン」を中止して、直接支援を拡充するよう政府に申し入れること。
2. 防疫の立場からPCR検査の戦略的な拡大をおこなうこと。
  - ①感染拡大の可能性のある地域を特定した場合は、そのエリア内のすべての店舗の従業員・連絡可能な顧客のPCR検査を実施すること。
  - ②人との接触が避けられない医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校など、集団感染によるリスクが高い施設に勤務する職員、出入り業者への定期的なPCR等検査を行うこと。必要に応じて、施設利用者全体を対象にした検査を行うこと。
  - ③全市町でPCR検査の検体採取を可能にすること。検体検査ができる機関を増やすこと。
  - ④現在より一桁多い大規模なPCR検査を展開するため、保健所を通さないルートを構築すること。
3. 地域ごとの感染状況がどうなっているかの情報を、住民に開示すること。市町別(広島市は区ごと)に、検査数、感染者数、陽性率を毎日、公表すること。
4. 検査によって明らかになった陽性者を、隔離・保護・治療する体制を、拡充すること。

辻つねお県議からは「今後保健所を通さずとも、医療機関で唾液検査でコロナ検査ができるようになる。県内で400の医療機関からOKの返事をもらっている」との情報市議団に寄

「コロナ感染が全国的にひろがる中、共産党の辻つねお県議は県内各地の共産党議員団の声を集め、広島県に対し「コロナ検査を全市町で行うこと」など、4項目の申し入れを広島県に対し行いました。また、同日尾道の人権文化センターで「コロナ問題懇談会」が開かれ、岡野(長)、三浦、檀上、新田、宮地、藤本、6市議が参加しました。

せられ、「入院ベッドは266床から500床に、ホテルは150室から700室に拡大・確保する予定」とのこと。市議団では尾道市内での検査体制の整備を求めていることにしています。



日本共産党  
市議会議員団  
週刊議会報告  
【発行】  
岡野長寿  
(0845-22-2596)  
三浦とおる  
(0848-48-5044)

## 8・6原水禁ヒロシマ大会、「平和の波行動」尾道で



原水禁世界大会がオランダのロッテルダムで開催され、例年バス参加する方々が尾道でも大会に参加、その後、尾道駅前「平和の波行動」を繰り広げました。

尾道市議は、自分も持たないか、あなたいの訴えをあげようとした。